

岩屋中だより

令和7年10月27日 NO17

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

暑かった10月上旬。涼しい10月 下旬。寒い11月？ 神無月から霜月へ・秋の訪れ

しばらく発行していなかった10月。10月当初は、まだ暑く、日差しも強い日が続きましたが、半ば頃から次第に気温も下がり始め、22日（水）の修学旅行の時には、大変涼しい気候に変わっていました。

先月末に合唱コンクールが終わり、普段の学校生活に戻った月でした。3年2組は、3年生の金賞学級だったため、連合音楽祭に参加することになり、ブリックホールで美しい歌声を披露しました。多くの観衆の前で歌うのは緊張もしたでしょうが、人生の中でなかなかない経験だったと思います。

22日～24日にかけて、2年生は、修学旅行に行ってきました。コースは、初日に秋芳洞、秋吉台サファリランド、松陰神社、松下村塾を見学し、2日目は、朝から萩市内を散策し、その後山口県から一路広島県へ移動して、安芸の宮島を班別自主研修しました。厳島神社も見学し、歴史を感じ、そのあと、お土産を買うなど楽しんでいました。その後、広島市内のホテルに移動しました。部屋がオートロックだったため、自部屋の鍵を中に入れたまま部屋を出て、うろたえている生徒が結構いました。そのたびに、1階のフロントに走る私でした。お風呂も部屋風呂を使い、1日目とは異なったお風呂を経験できました。

食事バイキング形式でお腹一杯の食事でした。

3日目は、広島市内の班別自主研修でした。広島原爆資料館を見学後に、各班で立案した行動計画に基づいて行動しました。各班楽しんでいました。

その後は、一路佐賀県まで新幹線で移動し、新鳥栖駅で解団式を行った後、学校へ帰校しました。

体調を大きく崩す生徒もなく、無事に帰校できたことは大変素晴らしかったと思います。また、班別自主研修集合完了時刻には、全員がそろい、大変立派でした。各班内の係活動も行程が進むにつれて慣れていき、係の活動をスムーズにこなせる人も多くなりました。勿論、反省すべきこと

はありますが、今後の校内生活に生かしてほしいと思います。2年生は、中学校生活折り返しです。1か月後には、生徒会役員選挙があります。学校の中核となって学校を引っ張っていく立場になります。3年生になって、学校の中心となって活躍する姿、自分の進路を実現するために頑張る姿をそろそろイメージしながら毎日を過ごしてほしいと思います。

さて、1年生。中学校生活にも十分慣れてきたようです。2学期になり、元氣も一層アップしたような気がします。今年の1年生の合唱は、例年に増して大変上手で、学級がまとまって練習したことがわかりました。最初はどの練習すればよいのかわからないままにスタートしたようでしたが、先輩の歌を聴いたりしながら、次第に必死に練習を重ねたのでしょう。日々の生活を大切にしながら、次なる学習である人権学習やふるさと学習に取り組んでほしいと思います。

最後に3年生。いよいよ3者面談を迎えました。進路説明会のときに話しましたが、『努力したから合格するとはかぎらない。しかし、合格した者は、すべからず努力している』という言葉を伝えました。人生初めての岐路です。どの学校を選ぶか、どのような方法で受験するかなど、考えることはたくさんあり、それを整理し、自分が進みたい道を決めていくわけです。きっと、この3者面談まで早かった……と感じている生徒も少なくないと思います。時の流れの速さが、受験に向けてますます早く感じるようになるでしょう。自分ができることを精一杯やって、受験へ向かうことが今後の3年生に課された大きな課題です。『受験は団体戦』です、3年生全員で、進路の実現という課題を克服できるように力を合わせていきましょう。『受験勉強』＝『自分を大事にする。』ことです。15の春を笑顔で迎えることができるように、一致団結して頑張り続けてください。私は、皆さんの辛抱強く、かつひたむきに進路の実現に向けて努力を重ねる姿を期待しています。

